

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301180		
法人名	社会福祉法人 総社保育園		
事業所名	グループホーム国府の里 (1ユニット)		
所在地	岡山県津山市総社34-1		
自己評価作成日	令和 1 年 8 月 31 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan1=true&JigyosyoCd=3370301180-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 1 年 10 月 4 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、装飾や作品作りを一緒に行い四季を感じている。自分らしく、出来る家事、朝の掃除、野菜作り、野菜収穫、調理、盛りつけ、洗い物、洗濯干し、たたみなどをして頂き、生き甲斐を持って暮らして頂いています。誕生日は好物でお祝いし、食事も喜ばれています。お花見、お涼み会、クリスマス会、節分など季節行事を楽しんでいます。創立記念日には、ご家族にも参加して頂き、敬老会でのお食事を挙げており、ご家族とのふれあいの時間を過ごして頂いております。同一法人の保育園の園児交流が月に一回有り、利用者様の笑顔も見られ、園児から元気ももらっております。利用者様が元気に笑顔で過ごして下さる事が職員にとって喜びで、ホームでの生活が楽しいものになるよう、職員一同がんばっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内に目立った汚れや破損、異臭等もなく、全体的に綺麗に維持されている。また、華やかな装飾もなく、やわらかい色合いの落ち着いた雰囲気の中、利用者も穏やかに個々の生活ペースで自立した生活が出来ている。明るくて笑顔も多く声をかけやすい職員は、「仲良く支えあう」ことをモットーとしており、事業所内の人間関係も良く、全職員で全利用者を把握しながら利用者ファーストで支援している。清潔な建物と落ち着いた雰囲気も相まって優しい気持ちにさせてくれる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を廊下・事務所に掲示し、毎朝の申し送り、ミーティング時に理念を声に出して読んでいる。職員全員で理念を基にサービスを提供する事としている。	「仲良く支えあう」ことをモットーとしており、職員が笑顔で実践している。これが事業所内に波及しており、職員間、職員・利用者間だけでなく、利用者間でも笑顔で助け合う様子が見られる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児の訪問が月1回あったり、買い物・お出かけ先の方との会話や挨拶を大切にしている。地域の方の花の差し入れも時々あり、回覧板も回っており、地域の行事に参加している。	町内会に加入し、清掃活動やお祭り等に参加している。町内に協力者がおり、困った際に手助けしてもらえる関係づくりが出来ている。また、ボランティアも積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方・町内会長の参加をお願いしており、認知症に対する情報を発信するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議において、行事や、日常生活等を報告。時期に合った情報を提供し、参加のご家族(順次参加依頼)や利用者様の要望や行政や地域の方々の意見をお聞きしている。	運営推進会議の際、行事等の動画を参加者全員で鑑賞しており、事業所内の取り組み状況や雰囲気を感じ取ってもらいながら、家族や行政、地域の方に安心感や親近感を与えている。また、レクで短歌を取り入れたり、体操を教えてもらったりするなど、情報交換や意見のやりとりが活性化している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修会に参加している。運営推進会議には市の担当者に出席して頂き、情報交換を行っている。	市の担当者が運営推進会議に毎回参加しており、定期的な情報交換が出来ている。また、困ったことがあれば、すぐに相談できる協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を設置し、運営推進会議で身体拘束について検討している。また研修に参加したり、ホーム内で勉強会をしている。	現在、身体拘束に該当する行為は行っていない。2ヶ月に一回、運営推進会議の中で委員会を開き、身体拘束について話し合っている。また、年2回、ミーティング時に事例等の資料を基に勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会などに参加し、申し送りやミーティングなどでも話し合い、また職員がストレスを溜めないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際には後見人を活用している方がおられる。職員が理解出来るように、情報伝達や勉強会をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明書の内容を時間を取って頂き説明し、同意を得ている。また、内容に変更がある時は、その都度説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、面会時、家族会、運営推進会議において意見・要望を尋ねている。面会簿等に要望記入欄を設けており、市の相談員に訪問して頂き要望等は、運営に反映している。	利用者からの意見・要望については日頃の会話の中から出てくる内容を汲み取るだけでなく、相談員が第三者の立場で聞きとった情報についても反映できるように努めている。主にサービスの向上や希望の実現に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、毎日の申し送りや、運営に関する意見交換を行ったり、管理者が職員に意見や提案を求め、反映させている。	管理者・職員間で報連相がしやすい環境ができており、個人の都合等による相談やサービスの向上に係る提案などが細かにやり取りされている。サービスの向上だけでなく、職員の働きやすい環境改善にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議を行い意見交換をしたり、随時報告・相談している。月1回程度ホームを訪ね、職員が向上心を持って働けるよう努めている。互助会で外食会を行い、気分転換や意見交換・情報交換の場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を勧め、内外の研修を受けるよう配慮している研修後は勉強会を行い、介護経験の少ない職員には疑問や不安を解消できるよう努めている。各自の向上心と質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流があり、市役所主催の研修会に参加し、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学・入所面接時に、ご家族や関係職員のお話や本人の要望を伺ったり、生活状態・生活歴を把握していき、少しでも早く慣れて頂くための必要なケアを行うよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	抱えている問題、困っている事を伺い、家族の思いを受け止め、どのようにケアしていく事が本人家族にとって良いか話し合い、良い関係作りが出来るよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の思いや、状況を確認している。環境の変化による不安を軽減し出来る事をして頂き出来ない事を支援し職員が統一したサービス提供を行うよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	地域の伝統、昔からの知恵や子育てのアドバイスを教えて頂いたり、野菜や花作り・家事を一緒にしている。利用者様と職員がお互いにして頂いたことの感謝を言葉に表し合っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況報告を頻繁に行い、信頼関係を築き、本人の状態の把握をして頂いて、パイプ役になれるよう努めている。また、ご家族だから聞くことの出来る本人の思いを汲み取って頂き教えて頂いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会があれば居室でゆっくり話が出来よう努めている。花見や紅葉狩り等では、よく行かれていた所にお連れしている。ご家族には今までの生活習慣を大切に頂き、お墓参りや外食等して頂いている方もいる。	家族や友人と一緒に行きつけのレストランや馴染みの美容院に出かける利用者があり、個々の生活習慣を尊重している。また、電話の取り次ぎや年賀状、お礼状作成等、馴染みの関係が継続できる様にサポートしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活面で支え合い、気遣いが出来るよう努め、気の合わない方への席の配慮をしている。利用者様同士のトラブル時、職員が仲立ちを行い、気分転換できる物を用意し、場の雰囲気や和ませるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際にはアルバムや作品集をお渡ししている。入院されたり、他施設に入所された方にも、ご家族と連絡を取る機会があれば、現在の状況を伺って、ご家族からの相談にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを伝えにくい方には、表情を読みとったり、自己選択して答えがもらえるよう声かけの工夫をする。日々の関わりの中で利用者様の立場に立って、思いをくみ取るよう努めている。	日常の会話や表情等から思いや嗜好を意識して把握するように努めると共に、家族や第三者との会話からの情報も積極的に得ている。また、利用者が選択する際、具体例をあげる等、選びやすいように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時面接にお伺いしたり、ご家族にライフスタイルシート用紙に記入して頂いている。またコミュニケーションの中で生活状態・生活歴・生活環境を伺い、知り得たことを職員全体で共有し、ケアに生かすように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解し、その日の状態により、その人らしく生活して頂く為に、その人全体の把握に努め、それを職員全体で共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中なかで、要望や思いを伺ったり、して頂いてとても喜ばれたこと等を、介護計画に反映させるよう、関係者で話し合い、モニタリングを行い、介護計画を作成している。	全職員で全利用者を把握しながら、個々の生活習慣や状態・状況に沿ったプランを作成しており、変化があればその都度、見直しを行っている。主治医や看護師等から得た情報や意見、アイデアもケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を、時系列で本人の発した言葉を交え、個々に記録し、特に変化があるときは、随時カンファレンスを行い、個々の介護経過と申し送りノートに記入し、口頭でも伝え情報の共有を行い、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、希望・要望には柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌のボランティアを受け入れたり、保育園児との交流、理容サービスを活用している。町内の方が避難訓練に参加して下さっている。消防署員の参加もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっており、受診はご家族に依頼しているが、緊急時や家族の都合がつかないときは受診支援を行っている。	入所時、利用者・家族に説明し、納得してもらった上でかかりつけ医を協力医に変更してもらっている。協力医の訪問(2週間に1回)の他、訪問看護(週1回)も受け入れており、24時間体制のもと、意見やアドバイスをもらいながら適切な医療を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来所し、健康管理・相談・指示を受けている。緊急時等に電話相談し、適切な対応が出来るようにしたり、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書にて情報提供を行い、面会時に病院関係者との情報交換に努めている。ご家族には電話連絡や面会時に情報交換を行っている。また退院時には相談員・看護師等から情報提供を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ホームで対応できるケアを説明し、同意を得ているが、必要があるときは、その都度話し合い、より良い方法を見つけるよう支援している。	入所の際、指針を基に利用者・家族に重度化した場合や終末期の対応について説明し、同意を得ている。重度化し入院した場合は、医師が利用者・家族に現状を説明し、医療方針など相談しながら一番良い支援策を話し合っている。	看取りに関する勉強会の開催に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル、対応経験者の話や実際に起こった事例を元にミーティング等で、随時確認している。緊急時対応を作成したり、個別に受診時ファイルを作り、緊急時に情報提供しやすいうように準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練(様々な想定)を行っており、設備会社や消防署員の立ち会いもあり、運営推進会議で町内の方にも協力を依頼し、方法等を相談している。近隣の椿寿荘、保育園、GH総社とも協力関係が出来ている。	年2回実施している避難訓練には、利用者や地域の人も参加している。内一回は消防署の立ち会いもあり、意見やアドバイスをもらっている。また、避難経路の掲示や緊急連絡網を活用した訓練も行っている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊厳を持って対応し、プライバシーの尊重に努め、プライドを損ねないような対応を心掛けている。	呼称は「さん付け」が基本であり、声かけの際は近くまで行き、小声で話しかけるようにしている。また、居室の名前掲示や共有空間の写真掲示など、利用者本人・家族の許可を取ってから対応している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多くするよう心掛け、ご本人の思いを聞き出し利用者様に寄り添い、自己決定出来るような声かけに努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など基本的な1日の流れは決まっているが、その方のペースを大切にし、それに合わせた対応を心掛けている。その日の体調に配慮しながら、本人の気持ちを尊重し、希望を尋ねながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時候に合った衣類の中で、好みの物を着用され、おしゃれを楽しんで頂いている。乱れや汚れがある時はさりげなく対応し、衣服の状態管理を行い、破れ・サイズ変更等をご家族に伝えている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食物や行事食等、共に考え、下準備、盛りつけ等一緒にしている。個々の状態に合わせて、飲み込みにくい方には、刻みなど形態を変えている。誕生日にはご本人の好物を提供している。	毎食職員の手作りであり、職員配置にゆとりがある時は利用者にごしらえ等の準備を手伝ってもらったり、お菓子を作ったりしている。利用者の誕生日に好物を提供するなど、食事が楽しくなる様に工夫している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を立て、個々に有った食事量、形態に配慮している。水分量を把握し、摂取しにくい方には好きな飲みやすい飲み物を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにて出来る方、介助が必要な方など、その方にあった口腔ケアをしている。義歯洗浄も行っている。歯科医師往診で義歯が合わない方には、義歯調整、治療を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、プライバシーに配慮した声かけ・誘導を行い、トイレでの排泄を促すようにしている。また、パットや紙パンツの種類も、個々に対応している。	職員は各利用者の排泄パターンを把握している。居室へのポータブルトイレの持ち込みはなく、必要に応じてトイレへの声かけを行っている。小まめな排泄支援により、紙パンツから布パンツになった利用者や皮膚の状態が良くなった利用者もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を勧め、バランスのとれた食事を提供し、運動に心がけている。排便チェック表により、オリゴ糖を使用し自然排便を促している。場合によっては訪問看護師に適切な処置を受けている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調と希望により、対応している。拒否の続く方には言葉掛け、対応の工夫によって一人一人に合わせた入浴支援を行っている。お風呂が楽しみな方が多く、気持ち良かったと喜んで下さっている。	毎日入浴可能であり、希望すれば対応している。基本一人ずつの入浴であるが、気の合う利用者同士で入浴することもある。個々の好きな温度に設定したり、冬至に柚子風呂を提供したりするなど、入浴が楽しくなる様に工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、なるべく活動して頂き、生活リズムを整えるよう努めている。個々に合わせて温度や、照明の調節を行っている。夜間の不眠時にはその都度対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴、病気、服用薬の把握に努め、錠剤が服薬しにくい方には粉薬、服薬ゼリー、とろみをつけ服薬しやすくしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備・花・野菜の世話、洗濯干し・洗濯たたみ・テーブル拭き・拭き掃除等、出来ることをして頂き、毎回感謝を伝えている。ぬりえ・絵合わせ・カルタ・歌等、好みのことがそれぞれ出来るように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体行事・外食等は全員参加して頂き、帰宅等の外出は、希望時に家族と相談し、決めている。季節の良い日に時々近所の保育園や公園、寺社に行ったり、職員と買い物に出かけたりしている。	事業所の周年パーティに家族を招待して外食したり、家族と一緒に結婚式に参加したり、パンケーキを食べに県外へ出かけたりにしている。また、最寄りに諸々の名所が揃っており、季節ごとにそれぞれの名所に出かけ季節の変化を楽しんでいる。そして、気候の良い日には散歩や野菜・花の水遣りなどに出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として、事務所で預かり、ご本人の欲しい物、本、ノート、手芸品、作品、化粧品などを購入している。ご本人、ご家族の希望に添えるようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状が書けるよう準備しており、娘様に手紙を書き写真を添えて出している方もおられる。電話も一人一人の状態と、家族に負担のないように配慮して支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期にあった塗り絵やタペストリーを飾っている。最近の写真をアルバムにして来訪者に見て頂いている。また、ご家族より、パッチワーク等を提供して頂いており、季節が感じられたり、家庭的な雰囲気の共用空間となるようにし、清潔感も保つようにしている。	事業所内は全体的に優しい色合いで統一されており、やわらかい・温かい雰囲気が感じられる。また、利用者と一緒に作った折り紙作品や机上の花が季節感を醸している。そして、行事の様子や近くの保育園児と一緒に撮った写真等が飾られており、利用者の目を楽しませている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方が落ち着ける場所が決まっており、利用者様同士の馴染みの関係ができ、テレビを見ながら楽しく雑談されている。時には移動して会話を楽しませている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や作品等を飾ったり、使用されていた家具・家電・寝具を置かれ、独自の居室が出来ている。居室前の名札は、入所時に自書して頂いている。	手芸品や家族写真、位牌など、個々に馴染みの物や趣味・好みの物を持ち込んでおり、それぞれに居心地良い空間となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室等は、理解して頂けるよう大きな字で案内している。状態の変化が見られた時はミーティング等で話し合い、自立支援に繋ぐことが出来るようにしている。			

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301180		
法人名	社会福祉法人 総社保育園		
事業所名	グループホーム国府の里 (2ユニット)		
所在地	岡山県津山市総社34-1		
自己評価作成日	令和 1 年 9 月 10 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=3370301180-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 1 年 10 月 4 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で花々や装飾、作品作りにより四季を感じできる家事をして頂き自分らしく生き甲斐を持って暮らして頂いています。昔ながらの行事や食事を大切にしており、お一人おひとりの誕生日には好物なものでお祝いし手作りカードも喜ばれています。また散歩や買い物、ドライブなど外出に出掛けたり、ホーム内でお楽しみ会を行ったりし、気分転換を図って頂いております。同一法人の保育園との園児交流が月一回あり、利用者の皆様が楽しみにされ訪問時には大変喜ばれ、園児から元気をもらっています。一番大きな行事として、毎年創立記念月に、ご家族にも参加して頂き食事をしています。利用者様とご家族とのふれあいを通して笑顔を見せ頂ける事が、職員にとって喜びであり、仕事への力をもらっています。ホームでの生活が、楽しいものになるよう職員一同頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内に目立った汚れや破損、異臭等もなく、全体的に綺麗に維持されている。また、華美な装飾もなく、やわらかい色合いの落ち着いた雰囲気の中、利用者も穏やかに個々の生活ペースで自立した生活が出来ている。明るくて笑顔も多く声をかけやすい職員は、「仲良く支えあう」ことをモットーとしており、事業所内の人間関係も良く、全職員で全利用者を把握しながら利用者ファーストで支援している。清潔な建物と落ち着いた雰囲気も相まって優しい気持ちにさせてくれる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも確認できるよう、ホール、事務所に掲示し、ミーティング時には全職員で理念を声に出して読む事で、再確認し日々のケアを行っている。	「仲良く支えあう」ことをモットーとしており、職員が笑顔で実践している。これが事業所内に波及しており、職員間、職員・利用者間だけでなく、利用者間でも笑顔で助け合う様子が見られる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児の訪問が月1回あったり、お祭りや清掃奉仕作業など、地域行事に参加させて頂き交流を深めている。また、地域の方の花の差し入れも時々あり、回覧板も回っており、地域の行事を知らせて頂いている。	町内会に加入し、清掃活動やお祭り等に参加している。町内に協力者がおり、困った際に手助けしてもらえ関係づくりが出来ている。また、ボランティアも積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の民生委員・町内会長の参加をお願いしており、毎回出席して頂いている。認知症に対する情報を発信するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議において、行事や、日常生活等を報告。時期に合った情報を提供し、参加のご家族や利用者様の要望や行政・地域の方々の意見をお聞きし、サービス向上に努めている。	運営推進会議の際、行事等の動画を参加者全員で鑑賞しており、事業所内の取り組み状況や雰囲気を感じ取ってもらいながら、家族や行政、地域の方に安心感や親近感を与えている。また、レクで短歌を取り入れたり、体操を教えてもらったりするなど、情報交換や意見のやりとりが活性化している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者に出席して頂き、情報交換を行っている。また、市主催の研修会に参加している。	市の担当者が運営推進会議に毎回参加しており、定期的な情報交換が出来ている。また、困ったことがあれば、すぐに相談できる協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を設置し、運営推進会議で検討している。また、研修に参加したりミーティング等でも話し合っている。	現在、身体拘束に該当する行為は行っていない。2ヶ月に一回、運営推進会議の中で委員会を開き、身体拘束について話し合っている。また、年2回、ミーティング時に事例等の資料を基に勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会などに参加し、申し送りやミーティングなどでも話し合い、また職員がストレスを溜めないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したり、全スタッフが理解出来るよう、情報伝達や勉強会をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書で十分説明し、理解と納得を得ている。変更時には説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、面会時、運営推進会議等において意見・要望をお聞きし、面会簿には記入欄を設けている。また市の相談員の訪問があり、意見を言い易いように支援し、要望などは運営に反映している。	利用者からの意見・要望については日頃の会話の中から出てくる内容を汲み取るだけでなく、相談員が第三者の立場で聞きとった情報についても反映できるように努めている。主にサービスの向上や希望の実現に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月一回のミーティングで、運営に関する意見交換を行い、反映させている。	管理者・職員間で報連相がしやすい環境ができており、個人の都合等による相談やサービスの向上に係る提案などが細かにやり取りされている。サービスの向上だけでなく、職員の働きやすい環境改善にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議を行い、意見交換し、月一回程度、ホームを訪れ、職員個々が向上心を持って働けるよう努めている。また、互助会での食事会も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を勧め、内外の研修を受けるよう配慮し、研修後は、ミーティングで報告を行い、全職員に情報を伝達している。また、介護経験の少ない職員には疑問や不安を解消できるよう努め、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流があり、市役所主催の研修会に積極的に参加し、交流を図り、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学・入所面接時に、ご家族や関係職員のお話や本人の要望を伺ったり、生活状態・生活歴を把握していき、少しでも早く慣れて頂くための必要なケアを行うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	抱えている問題・困っている事を伺い、家族の方の思いを受け止め、どのようにケアしていく事が、本人・家族にとって良いかを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向を聞き、可能な限り柔軟な対応を行い、初回プランを立て同意を頂いている。全職員に伝達し把握し、統一したサービス提供を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔ながらの伝統や知恵を教えて頂いたり、家事を一緒にしている。利用者様と職員がお互いに、して頂いた事への感謝を言葉に表しあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一回のご家族へのお便りに、写真を添えたり面会時に状況報告をこまめに行い、ご家族に把握して頂いている。また、施設内での行事など一緒に過ごして頂く機会を作り、パイプ役になれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の面会時には居室でゆっくり話が出来よう配慮している。花見や紅葉狩り等では、よく行かれていた場所をお聞きしてお連れしている。	家族や友人と一緒に行きつけのレストランや馴染みの美容院に出かける利用者があり、個々の生活習慣を尊重している。また、電話の取り次ぎや年賀状、お礼状作成等、馴染みの関係が継続できる様にサポートしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士お互い協力しあって過ごせるよう支援している。また、利用者様同士のトラブル時、職員が間に入り仲立ちを行いコミュニケーションを図り、場の雰囲気や和ませるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所されたり、入院された方にも様子を伺ったり、またご家族からの相談にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情などからご本人の思いを感じ取ったり、個別対応時に希望や思いをお聞きし、職員間で情報共有し、支援できるよう努めている。	日常の会話や表情等から思いや嗜好を意識して把握するように努めると共に、家族や第三者との会話からの情報も積極的に得ている。また、利用者が選択する際、具体例をあげる等、選びやすいように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、面接にお伺いしたり、ご家族にライフスタイルヒストリー用紙に記入して頂いている。またコミュニケーションの中で生活状態・生活歴・生活環境を伺い、知り得たことを職員全員で共有し、ケアに活かすように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解し、その人らしく生活して頂く為にその人全体の把握に努め、職員全員で共有するよう努めている。また、得意な事等をケアに活かせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、ご本人、ご家族の要望や思いを伺ったりし、介護計画に反映させるよう、ミーティングでモニタリング・カンファレンスを行い、介護計画の作成に活かしている。	全職員で全利用者を把握しながら、個々の生活習慣や状態・状況に沿ったプランを作成しており、変化があればその都度、見直しを行っている。主治医や看護師等から得た情報や意見、アイデアもケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作り、日々の様子、ご本人の発した言葉やエピソードなどを記録とし残している。また、バイタル・食事量・排泄等の身体的状況も記入し、職員間で情報を共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じて、通院や送迎等の支援を行ったり、洋服や趣味の手芸用品などの購入の支援を行ったりし、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ・保育園児との交流や、理美容サービスを活用している。町内の方が避難訓練に参加して下さっている。消防署員の参加もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望するかかりつけ医にしている。受診・通院はできる限りご家族で同行して頂き、都合のつかない場合はスタッフが同行している。月二回往診があるので、必要時は相談し指示を受けている。	入所時、利用者・家族に説明し、納得してもらった上でかかりつけ医を協力医に変更してもらっている。協力医の訪問(2週間に1回)の他、訪問看護(週1回)も受け入れており、24時間体制のもと、意見やアドバイスをもらいながら適切な医療を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来所し、個々の状況を報告、相談し、健康管理している。爪切りや、便秘時には適切な処置を受けている。緊急時等に適切な対応ができるようアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書にて情報交換を行い、面会時に病院関係者との情報交換に努めている。ご家族とも回復状況等の情報交換を行っている。また、退院時には相談員・看護師等から情報提供頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合の指針の説明を行い、了解して頂き、入所後はその都度相談し、支援している。	入所の際、指針を基に利用者・家族に重度化した場合や終末期の対応について説明し、同意を得ている。重度化し入院した場合は、医師が利用者・家族に現状を説明し、医療方針など相談しながら一番良い支援策を話し合っている。	看取りに関する勉強会の開催に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや対応経験者の話、実際に起こった事例を元にミーティング等で、随時情報共有している。緊急時メモを作成したり個別に受診時ファイルを作り、緊急時に情報提供しやすいように準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練(様々な想定)を行っており、設備会社や消防署員の立ち会いもあり、運営推進会議で町内の方にも協力を依頼し方法を相談している。近隣の(椿寿荘、保育園、GH総社)とも協力関係が出来ている。	年2回実施している避難訓練には、利用者や地域の人も参加している。内一回は消防署の立会いもあり、意見やアドバイスをもらっている。また、避難経路の掲示や緊急連絡網を活用した訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊厳を持って対応し、プライバシーの尊重に努め、プライドを傷つけないような対応を心掛けている。	呼称は「さん付け」が基本であり、声かけの際は近くまで行き、小声で話しかけるようにしている。また、居室の名前掲示や共有空間の写真掲示など、利用者本人・家族の許可を取ってから対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で、利用者様に合わせた声かけを行い、自己決定出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中の出来る事や得意な事などへのお誘いの声かけを行ったり、希望をお尋ねし、その方のペースを大切にしている。また、その日の体調に配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時候に合った衣類の中で好みの物を着用して頂きお洒落の褒め言葉をかけ、乱れや汚れがある時は、さりげなく対応している。衣類の整理・状態管理、裾直し・ボタン付け等を行い、破れ等をご家族にお伝えしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食物や行事食、誕生日には赤飯・ちらし寿司、ケーキ、和菓子などの好物な物を提供している。見た目も大切に、季節感や彩りを工夫している。また、個々の状態に合わせて、形態を変えたりしている。	毎食職員の手作りであり、職員配置にゆとりがある時は利用者に下ごしらえ等の準備を手伝ってもらったり、お菓子を作ったりしている。利用者の誕生日に好物を提供するなど、食事が楽しくなる様に工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を立て、一人ひとりに合った食事量、形態に配慮している。水分量を把握し、十分な水分が摂れるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにて出来る方、介助が必要な方など、その方にあった口腔ケアをしている。義歯洗浄も毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、プライバシーに配慮した声かけ・誘導を行い、トイレでの排泄を促すようにしている。また、パット・紙パンツの種類も個々の状態に応じ対応をしている。	職員は各利用者の排泄パターンを把握している。居室へのポータブルトイレの持ち込みはなく、必要に応じてトイレへの声かけを行っている。小まめな排泄支援により、紙パンツから布パンツになった利用者や皮膚の状態が良くなった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた食事、繊維の多い食品や乳製品の摂取、便秘気味な方には、オリゴ糖を水分に入れて飲んで頂いたり、工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を、楽しみにして下さっている方が多く、拒否のある方も言葉掛けや対応の工夫により、入られると「気持ちいい」と喜ばれる。体調不良時、希望により入浴されない日は、清拭にて対応している。	毎日入浴可能であり、希望すれば対応している。基本一人づつの入浴であるが、気の合う利用者同士で入浴することもある。個々の好きな温度に設定したり、冬至に柚子風呂を提供したりするなど、入浴が楽しくなる様に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中なるべく活動して頂き、生活リズムを整え安眠出来るよう努めている。また、足の浮腫がある方など、身体の状態により、昼間に休息して頂くよう支援している。夜間の不眠時には、その都度対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の既往歴、病気、服用薬の把握に努め、服薬しにくい方には、服薬ゼリーやオブラートなどで飲み込み易くしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみ・干し、拭き掃除、お膳拭き等、出来る事を役割を持って頂き、達成感を共に味わい、感謝をお伝えしている。また、体操、塗り絵・パズル・歌・折り紙・散歩をしたり、好物な物が食せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体行事で外出・外食に出掛けたり、ご家族と外出・外食される方もある。気候の良い日には、職員と近所を散歩したり、買い物やドライブに出掛けたりしている。	事業所の周年パーティに家族を招待して外食したり、家族と一緒に結婚式に参加したり、パンケーキを食べに県外へ出かけたたりしている。また、最寄りには諸々の名所が揃っており、季節ごとにそれぞれの名所に出かけ季節の変化を楽しんでいる。そして、気候の良い日には散歩や野菜・花の水遣りなどに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として、事務所で預かりし、ご本人の欲しいもの、雑誌、手芸品、化粧品、洋服など購入し、ご本人、ご家族の希望に添えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に、年賀状を出せる支援をしている。また、個別にご家族への電話をかける際のお手伝いを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、時期に合った塗り絵や壁面飾りなどの作品、写真などを飾っている。また、家庭的な雰囲気気の共有空間となるようにし、清潔感も保つようしている。	事業所内は全体的に優しい色合いで統一されており、やわらかい・温かい雰囲気が感じられる。また、利用者と一緒に作った折り紙作品や机上の花が季節感を醸している。そして、行事の様子や近くの保育園児と一緒に撮った写真等が飾られており、利用者の目を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方がほぼ座る場所が決まっており、利用者様同士の馴染みの関係ができ、穏やかに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時、馴染みの物を一つでもと説明させて頂き、使用されていた家具や、ご家族の写真を置かれたり、作品等を飾ったりし、独自の居室が出来ている。	手芸品や家族写真、位牌など、個々に馴染みの物や趣味・好みの物を持ち込んでおり、それぞれに居心地良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前の名札・トイレなどは理解して頂けるよう大きな字で案内している。自室前名札は個々に飾りつけをし解りやすい工夫をしている。		